

# 野菜畑作生産情報 第1号

平成30年4月19日  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



- ◎ 小麦の生育は平年並から下回っている。適切な追肥で生育量と品質を確保しよう！
- ◎ にんにくの生育は平年並みからやや早まっている。適期追肥と春腐病等の防除を徹底しよう！

## 畑作物

### 1 消雪及び根雪の状況

- (1) 黒石市の消雪日は3月16日で平年に比べて6日早く、根雪期間は100日間で3日長かった。
- (2) 六戸町の消雪日は3月13日で平年に比べて1日早く、根雪期間は50日間で30日短かった。

表-1 消雪及び根雪の状況

場 所	年次	初日	終日	消雪日	根雪期間
農林総合研究所 (黒石市)	本年 (平年差)	12/6 (早9日)	3/15 (早6日)	3/16 (早6日)	100日 (長3日)
	平年	12/15	3/21	3/22	97日
	前年	12/7	4/1	4/2	116日
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年差)	1/22 (遅28日)	3/12 (早1日)	3/13 (早1日)	50日 (短30日)
	平年	12/25	3/13	3/14	80日
	前年	1/11	3/13	3/14	62日

注) 平年値は、農林総合研究所が過去12か年、野菜研究所が過去9か年 (H23除く)

### 2 小 麦

#### (1) 生育状況 (4月10日現在)

- ア 草丈は、いずれの地点も平年を下回った。莖数は、つがる市と十和田市で平年を下回った。降雨によりは種作業が遅れた一部のほ場では、その後の低温や積雪により、越冬後の生育が劣っている。
- イ 幼穂形成期は、平年より黒石市で12日、十和田市で2日、六戸町で1日早かったが、つがる市では3日遅かった。
- ウ 排水不良による枯死や雪腐病が一部地域で散見される。

表－2 小麦の越冬後の生育状況（4月10日現在）

場 所	年次	ネバリゴシ			キタカミコムギ		
		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	幼穂形成期 (月日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	幼穂形成期 (月日)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年	13.3	1,110	3/29	15.5	900	3/30
	平年差・比	(78%)	(99%)	(早12日)	(75%)	(88%)	(早14日)
	平年	17.1	1,117	4/10	20.8	1,019	4/13
野菜研究所 (六戸町)	本年	19.6	1,573	3/28			
	平年差・比	(89%)	(115%)	(早1日)			
	平年	22.0	1,368	3/29			
つがる市 (木造)	本年	13.8	661	3/28	16.3	466	3/30
	平年差・比	(73%)	(75%)	(遅3日)	(74%)	(53%)	(早1日)
	平年	18.9	877	3/25	22.0	886	3/31
十和田市 (三本木)	本年	14.2	956	3/31			
	平年差・比	(90%)	(78%)	(早2日)			
	平年	15.8	1,227	4/2			
つがる市 (木造)	前年	22.0	1,118	3/17	26.9	1,071	3/19
	前年	21.2	1,757	4/1			
	前年	21.2	1,757	4/1			

注) ①農林総合研究所、野菜研究所が作況試験ほ、つがる市(木造)、十和田市(三本木)が生育観測ほの調査成績。

②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」が過去12か年、野菜研究所の「ネバリゴシ」が過去9か年(24年産(出芽不良)を除く)、つがる市(木造)と十和田市(三本木)の「ネバリゴシ」が過去16か年、つがる市(木造)の「キタカミコムギ」が過去22か年の平均値。

## (2) 今後の留意点

- ア 転換畑では、停滞水による湿害を防止するため、明きよを設置するなど排水に努める。
- イ 一穂粒数を確保し、タンパク質含量を高めるために2回目の追肥を実施する。追肥時期及び量は表－3を参考に、茎葉の繁茂状況や葉色等を勘案して調整する。(ネバリゴシの追肥の判断基準は、平成19年度指導参考資料の『小麦「ネバリゴシ」のタンパク質含量を高めるための追肥は葉色値(SPAD値)で判断できる』を参照のこと。)
- ウ うどんこ病の防除は、止葉直下葉での発生直後に薬剤散布を行うと効果的である。ただし、アミスター20フロアブルは出穂後に使用すると、赤かび病のカビ毒汚染低減効果が劣る事例があるため、別の薬剤を使用する。
- エ 赤かび病の適期防除のため薬剤散布の準備をする。

表－3 追肥時期と追肥量

追肥時期	止葉抽出期(減数分裂期)(2回目)
追肥量	窒素成分で 2 kg/10a

# 野 菜

## 1 にんにく

### (1) 生育状況

ア 草丈は、七戸町では平年を上回っており、六戸町、藤崎町及び田子町では平年並となっている。葉数は、六戸町及び藤崎町が平年を上回っており、田子町では平年並、七戸町では平年を下回っている。

イ 病害虫の発生は見られない。

ウ りん片分化期は、六戸町で平年より4日早い4月18日に達していることから、今後、気温が平年並に経過すれば、平年並からやや早まると予想される。

表-4 にんにくの生育状況（4月10日現在）

場 所	年次	植付期	4月10日			りん片 分化期 (月日)	備 考
			草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	茎 径 (mm)		
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平比)	10/2	43.0	7.1	13.7	—	透明マルチ
	平年同	10/2	(105%)	(115%)	(103%)	—	
	平年	10/2	41.1	6.2	13.3	4/22	
	前年	9/30	44.2	6.8	13.7	4/17	
藤 崎 町 (旧常盤村)	本年 (平比)	9/23	19.6	4.5	—	—	無マルチ
	2日遅	( 97%)	(125%)	( — )	—		
	平年	9/21	20.2	3.6	—	4/29	
	前年	9/20	17.4	3.7	—	4/26	
七 戸 町 榎 林 (旧天間林村)	本年 (平比)	9/26	28.7	3.6	11.5	—	グリーンマルチ
	8日早	(114%)	( 88%)	( 98%)	—		
	平年	10/ 4	25.1	4.1	11.7	4/24	
	前年	10/ 5	23.4	3.9	—	4/21	
田 子 町 日ノ沢	本年 (平比)	10/ 2	23.3	4.0	—	—	グリーンマルチ
	6日早	(100%)	( 98%)	( — )	—		
	平年	10/ 8	23.4	4.1	—	4/23	
	前年	9/28	26.8	4.0	—	4/18	

注) ①平年：野菜研究所は平成22～29年の8か年の平均値。

藤崎町は平成9年～29年の21か年の平均値。

七戸町は平成8年～29年（平成25年を除く）の21か年の平均値。

田子町は平成8年～29年の22か年の平均値。

②種子：野菜研究所は福地ホワイト（13～14g）。藤崎町は福地ホワイト（13～15g）。

七戸町は白玉王（6g）。田子町は白玉王（8～10g）。

③葉数：野菜研究所は抽出葉数。藤崎町、七戸町、田子町は生葉数。

### (2) 今後の留意点

ア 排水対策

排水が悪いほ場では、明きよを設置するなど排水対策を講じる。

イ マルチの補修

風などでマルチが浮き上がったり、剥がれている箇所は早めに補修する。

ウ 適期追肥の励行（追肥体系の場合）

2回目の追肥は、10 a 当たり窒素成分で5 k gを目安に、りん片分化期等の生育状況を確認しながら適期に行う。

2回目の追肥時期：透明マルチ・・・りん片分化期後10日ごろ

黒マルチ・・・りん片分化期～りん片分化期後10日ごろ

#### エ 除けつ

1株に複数萌芽した株は、株の分離を確認後、株元の土を掘り、生育の良い方を残すように押さえ、他を引き裂くようにして抜き取る。

ただし、採種ほ場では抜き取りを行わず、そのまま生育させる。

#### オ 病虫害防除

さび病、春腐病の早期発見、早期防除に努めるとともに、春腐病の被害株は抜き取って処分する。

## 2 ながいも

### (1) 作業状況

春掘作業は、おおむね平年並となっている。

### (2) 今後の留意点

ア 掘取りは、作業条件の良いほ場から順次進め、芽が動くなどの品質低下を防ぐため、4月末までに作業を終える。

イ トレンチャー耕は、穴落ちなどを防ぐため適正速度を守る。

ウ 種いもは、栽培法に合わせて準備するとともに、早植栽培では4月下旬から5月上旬に植付けする。

表－5 ながいも栽培法別の種いもの種類と重さ

栽培法	植付時期	種いもの種類	頂芽	重さ(g)
早植栽培	4月下旬～5月上旬	1年子	有り	50～100
普通栽培	5月中旬～6月上旬	1、2年子	切除	100～150
	5月下旬～6月上旬	切りいも	切除	120～150

### 3 トンネルだいこん、にんじん

#### (1) 生育状況

は種作業は、だいこん、にんじんともおおむね平年並であった。

だいこんの生育は、4月上旬の気温が平年より低く推移したため、平年を下回っているものの、おおむね順調である。

表－6 春だいこんの生育状況（4月10日現在）

場 所	年次	は種期	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	備 考
おいらせ町 内山平 (旧百石町)	本年	3/21	4.4	0.3	透明ポリマルチ＋ 透明ポリトンネル
	(平年)	1日遅	(66%)	(15%)	
	平年	3/20	6.7	2.0	
	前年	3/24	4.5	0.6	

注) ①平年:平成20年～29年の過去10か年の平均値。

②品種:春の星。

表－7 春夏にんじんの生育状況（4月10日現在）

場 所	年次	は種期	備 考
六戸町 下吉田	本年	3/16	透明ポリトンネル
	(平年)	平年並	
	平年	3/16	
	前年	3/13	

注) ①平年:平成20年～29年の過去10か年の平均値。

②品種:彩誉7。

#### (2) 今後の留意点

好天時は換気し、生育ステージに合わせた適正な温度管理に努める。

### 4 トマト、メロン

#### (1) 生育状況

苗の生育は、平年並である。

#### (2) 今後の留意点

ア 定植に向けて徐々に気温を下げて苗を順化する。

イ 土壌水分が好適な時期に早めにマルチングを行って、地温の確保に努める。

ウ 苗が老化しないように計画的には場準備を進める。定植が遅れる場合は、苗が老化しないよう薄めた液肥を与えるなど適正管理に努める。

エ 降霜が予想される時や低温時には、二重被覆や暖房器具等で保温に努める。

◎育苗中や定植間もない農作物は、降霜等の影響を受けやすいので、週間天気予報などに十分注意し、適正な栽培管理に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！  
ほ場の準備に当たっては、土壌診断に基づいた土づくりに努めましょう。

◎農薬の使用に当たって、  
農薬は適正に使用しましょう。  
農薬の飛散を防止しましょう。  
農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てないようにしましょう。  
クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、必ずポリエチレンフィルム等(厚さ0.03mm以上または難透過性の資材)で被覆してください。  
農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。  
農薬情報([http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/))

農薬登録情報提供システム

【詳細検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

【作物名検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)

◎春の農作業安全運動を展開中です(4月1日～5月31日)  
例年、4～5月は、農作業事故が多くなる時期となっています。  
体調やまわりの状況を確認し、安全な農作業に努めましょう。  
1 慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。  
2 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。  
3 自分を過信しすぎず、無理のない作業を行いましょう。  
4 一人での作業は避け、やむを得ず一人で作業を行う場合は、家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちましょう。  
5 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼びかけましょう。

---

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	5077
直通	017-734-9485

---